

## はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プラン 総 括

高知県及び高知市では、「東西軸エリアに多くの人が集まり、誰もがゆっくりと、楽しみながら気ままに『まちぶら』できるエリア」を目指して、平成28年3月までの5年間を計画期間とした「はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プラン」を、平成23年3月に策定しました。

計画策定以降の5年間、「おまち」の持つ、歴史・文化・食という魅力を活用し、「地域・スポットごとに実施する事業」、「エリア全域で取り組む事業」や「連携して実施する事業」など、計46の事業に取り組んできました。

### 1 取り組みの成果等

ハード整備としては、歌碑（南国土佐を後にして）の建立や共用地方車の設備整備、高知よさこい情報交流館の創設、中央公園の遊具整備について、計画どおり実施することができ、まんが甲子園優勝モニュメントの移設についても、来年度に実施する目途がつかしました。一方で、大規模な施設である高知城歴史博物館や新図書館については、入札の不調等により計画よりも完成が遅れることになりました。

ソフト事業では、日曜市の活性化のための「高知市街路市活性化構想」の策定やにぎわいの創出のための商店街における各種イベント・フラフによる演出、空き店舗対策、来街者に優しい商店街づくりのためのベンチの整備、まち歩きを促進する「土佐っ歩」の充実などの多くの事業に取り組み、ほぼ計画どおりに実施することができました。

このように県・市・民間が一体となって事業に取り組んできた結果、大規模施設の整備の遅れなどにより効果が十分に現れていない指標があるものの、観光客の入込み数の増加や空き店舗率の改善など、東西軸エリアの活性化を一定図ることができたものと考えています。

### 2 目標の達成状況

#### (1) 主要な目標

	H20実績	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H27目標
① 観光客入込み数（年間）	230万人	327万人	291万人	288万人	305万人	301万人	300万人超 （集計中）	300万人
② 商店街等の歩行者通行量 （夏季・休日：一日あたりのべ人数）	5.6万人	5.8万人	6.6万人	4.9万人	5.7万人	4.8万人	5.2万人	H20実績（5.6万人） 以上を維持
③ 空き店舗率	15.30%	13.39%	15.03%	14.08%	12.99%	12.42%	13.07%	H20実績（15.3%） 以下を維持

#### ①観光客入込み数

平成20年の230万人から大きく増加し、平成27年は目標の300万人を超える見込みとなっています。

#### ②商店街等の歩行者通行量

年度により増減があるものの全体としてやや減少傾向にあり、平成27年度は目標の5.6万人を下回りました。なお、冬季の調査ではやや増加傾向であり、また、高知城歴史博物館及び新図書館の完成により、今後は通行量

の増加が期待できます。

### ③空き店舗率

年々改善傾向にあり、平成27年は13.07%と、目標の15.3%以下となりました。

## (2) サブ目標

	H20実績	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H27目標
a. 高知城入場者数（年間）	21万人	36万人	29万人	25万人	26万人	25万人	26万人	30万人
b. 新資料館入館者数（年間）	-	-	-	-	-	-	-	10万人
c. てんこす レジ通過者数（年間）	6万人 (H23.1現在)	6.9万人	8万人	8.3万人	8.4万人	7.9万人	8.2万人	10万人
d. 中央公園地下駐車場一台あたり平均利用時間	1.6時間	1.67~1.73時間	1.71時間	1.72時間	1.69時間	1.69時間	1.69時間	2時間
e. はりまや橋観光バスターミナル県外バス利用台数（年間）	125台	1,379台	1,572台	1,391台	1,083台	1,224台	1,118台	1,000台

#### a 高知城入場者数

目標の30万人は達成できなかったものの、平成20年の21万人からは増加しており、来年3月の高知場歴史博物館の開館や歴史を中心とした博覧会の開催により、さらに入場者数の増加が期待できます。

#### b 新資料館入場者数

平成29年3月開館予定です。

#### c てんこす レジ通過者数

目標の10万人は達成できなかったものの、オープン当初の平成22年の6.9万人から8万人台にまで増加しています。

#### d 中央公園地下駐車場一台あたり平均利用時間

目標の2時間は達成できなかったものの、平成20年度以降、1.7時間前後で平均的に推移しています。

#### e はりまや橋観光バスターミナル県外バス利用台数

プラン策定以降、毎年1,000台を超える利用となり、目標を達成することができました。

## 3 プラン終了後の対応

「帯屋町チェントロ」や県立大学永国寺キャンパスの整備、また、今後も高知城歴史博物館や新図書館が完成することにより、東西軸エリアの西側には新たなにぎわいが生まれます。さらには、外国人観光客の増加や南海トラフ地震などへの対応も必要となる一方、比較的規模の大きい商業施設や老舗店舗が撤退するなど、プラン策定以降も「おまち」を取り巻く環境が大きく変化してきています。

そのため、東西軸エリア活性化プランを統合した「高知市中心市街地活性化基本計画」に基づき、これまでの取り組みにより見えてきた課題に適切に対応し、また成果をさらに高め、さらなる中心市街地の活性化に向けて、高知県、高知市、商店街をはじめとする民間が連携して、取り組みを進めていきます。